

# 日本原子力産業協会と中国関係機関との協力・交流の歴史

2008年5月  
日本原子力産業協会  
国際部

## 1. 日中原子力交流の発端（1979～80年）

- ・ 当協会と中国との間の原子力交流は、原産主催の日本アイソトープ会議（1979年11月）、原産年次大会（1980年3月）に中国の専門家を受け入れたのが最初である。
- ・ その後、1980年6月に放射線利用調査団（斉藤信房東大教授他）、同年7月に原産訪中代表団（園城寺次郎原産副会長他）を派遣し、同年9月に第二機械工業部代表団（李覚次官他）を受入れた。
- ・ これらの相互訪問・懇談を通じて、日中間で人的交流、情報交換を内容とする協力推進の意義を確認し、これに計画性を持たせるため両者間で覚書を取り交わすことで合意。

## 2. 日中原子力協力覚書締結（1981年）

- ・ 1981年9月3日、北京で園城寺副会長と李次官との間で「日本原子力産業会議と中華人民共和国第二機械工業部との間の原子力平和利用分野における協力に関する覚書」に調印。
- ・ 覚書は、交流形態について規定しており、具体的な実施方法については両者の代表により協議（日中原子力代表者会議）。

## 3. 具体的活動（1980年代～90年代）

### (1) 日中原子力協力連絡委員会の設置と活動

- ・ 日中政府間の原子力協定がなく核兵器国である中国への協力について、オールジャパンでの対応の審議を行うために、原産に1982年9月に設置。外務省、科技庁、通産省は当初よりオブザーバーとして参加。  
委員長：1982年～1987年 園城寺次郎・原産副会長  
1988年～2005年 小林庄一郎・原産副会長
- ・ 1983年7月の委員会審議を経て、原産は同年8月、関係大臣等に「原子力平和利用分野における日中間の協力促進について要望」を提出。→同年9月の第3回日中閣僚会議において、原子力分野で政府協議を行うことで合意。
- ・ 日本メーカーによる秦山原子力発電所向け原子炉圧力容器の輸出に関して産業界の意向を政府に伝達（日中政府間の原子力協定の早期締結を要望）。→1984年3月、秦山原子力発電所向け原子炉圧力容器の輸出に関する日中政府間書簡交換。1985年7月、日中原子力協力協定調印（1986年7月、発効）。

- ・なお、日中委員会は、1990年代以降は開催していない。原産改革に伴い、2005年6月に廃止された。

## (2) 日中原子力協力代表者会議

- ・代表者会議への原産代表団は、電力、メーカー、研究開発機関等の幹部の他、政府関係者で構成。中国側は、トップクラスが対応していた。例えば、第1回代表者会議では、中国側から、当時の第二機械工業部の部長（大臣）、副部长（次官）、外事局等が出席。
- ・代表者会議では、夫々の原子力開発状況についての意見交換、具体的な交流内容（計画）についての協議・合意、関係機関幹部との懇談、原子力施設の視察を実施。
- ・第5回からは「定例打合せ」と呼称。この頃からは、具体的交流計画は定めていない。
- ・代表者会議の開催年と原産代表団団長名
  - －第1回代表者会議訪中代表団（1982年4月、村田浩原産副会長）
  - －第2回代表者会議訪中代表団（1983年5月、村田浩原産副会長）
  - －第3回代表者会議訪中代表団（1984年10月、村田浩原産副会長）
  - －第4回代表者会議訪中代表団（1985年10月、村田浩原産副会長）
  - －第5回定例打合せ訪中代表団（1987年9月、村田浩原産副会長）
  - －第6回定例打合せ訪中代表団（1990年9月、小林庄一郎関西電力会長）
  - －第7回定例打合せ訪中代表団（1992年9月、向坊隆原産会長）
  - －第8回協力定例打合せ訪中代表団（1997年9月、向坊隆原産会長）

## (3) テーマ別交流等

- ・日中原子力協力代表者会議で決められた交流計画に基づき、原子力発電所品質保証、計画管理、建設据付、発電炉技術、ウラン資源、放射性廃棄物管理、放射線防護、核融合、アイソトープ放射線利用（医学、農業等）等のテーマ別に専門家代表団の派遣・受入を実施（1982から1995年頃迄に約60件、延べ約5,000人・日）。
- ・その他必要により、国家科学技術委員会などのハイレベルの要人の受入、会合等を実施

## (4) 原子力発電所の輸出等を視野に入れた活動

- ・原産は、（上記の通り、日中協力促進の要望、日中協定早期締結の要望を行うなど）当初から、近隣アジア地域における原子力安全確保と日本の技術の輸出を念頭において日中協力を推進してきたが、下記の活動等も実施。
- ・1984年9月、原子力発電原産訪中団派遣
  - 白澤富一郎原産副会長を団長に電力、メーカー、学識者、政府関係者からなる代表団を派遣。中国の関係省・委員会等の幹部と懇談し、日本が協力を惜しまないことを強調。北京と上海で実務レベル対象にセミナーを実施。
- ・1984年9月、李鵬中国国務院副総理一行との懇談。
- ・1985年11月15－30日、北京・アジア太平洋国際見本市（ASPAT'85）出展
  - 中国国際貿易促進委員会と国連アジア太平洋経済社会委員会との共催による

ASPAT'85 に、日本貿易振興会が参加機関、原産が協力機関として参加し、原子力、重電、先進技術の展示を行った。商業ブース 106 小間、総合ブース 40 小間、約 40 社・機関出展。11 月 13-14 日には、中国原子力工業省、中国原子力学会等との共催で原子力講演会を開催。日本の原子力開発経験、最近の原子力発電技術、今後の展望等を紹介し、官民挙げての国際協力姿勢を強調。

#### **(5) 政府主催のアジア地域原子力協力国際会議への協力**

- ・原産は、政府からの受託事業として、1990 年（第 1 回会議）から 1999 年（第 10 回会議）まで中国を含むアジア地域協力を実施。同会議に参加するために来日する中国核工業総公司幹部との懇談を実施。

（アジア地域原子力協力国際会議は、日本、中国を含む近隣アジア 9 カ国による閣僚等による政策対話。原子力委員会主催）

### **4. 2000 年以降の主な協力活動**

#### **(1) 政府主催のアジア原子力協力フォーラム（FNCA）に協力**

- ・2000 年度より、前述のアジア地域原子力協力国際会議は、アジア原子力協力フォーラム（FNCA）に発展。原産は、政府受託事業として、FNCA 活動を実施。
- ・FNCA は大臣級会合、コーディネーター会合、エネルギー検討パネルからなり、その枠組みのもとに、①研究炉利用、②放射線の医学利用、③放射線の農業利用、④放射線の工業利用、⑤原子力広報、⑥放射性廃棄物管理、⑦人材養成、⑧原子力安全文化、の 8 分野について、9 カ国でワークショップ等の活動を実施。

#### **(2) 中国核工業総公司（CNNC）、中国原子能機構（CAEA）との交流**

- ・以前のような定例的なテーマ別の専門家交流は実施していないが、原産年次大会での中国原子力機関の幹部一行の来日（原産との懇談や施設訪問）等の交流を継続。
- ・主な交流：
  - ①西澤会長の訪中、CAEA、CNNC 首脳と懇談（2000 年 8 月 22-24 日）  
日中原子力協力全般について意見交換（原産との協力、年次大会参加、他）
  - ②李東暉 CAEA 副主任委員一行との懇談（2001 年 4 月 26 日、年次大会参加）
  - ③張華祝 CAEA 主任一行の日本原燃六ヶ所施設訪問（2001 年 11 月 28 日）
  - ④馬鴻琳 CAEA 秘書長一行との懇談（2003 年 4 月 16 日、年次大会参加）
  - ⑤康日新 CNNC 総経理一行来日（2004 年 4 月、年次大会参加）
  - ⑥辛鋒 CNNC 核電局総合処副処長来日（2005 年 4 月、年次大会参加）

#### **(3) 日中科学技術交流センター、中国核学会等との協力**

- ・日中科学技術交流センターからの要請に基づき、原子力安全確保、日本の技術紹介の視点から、同センター、中国核学会、CNNC 等が共催する日中原子力発電技術交流会の開催に協力。
  - ①第 1 回日中原子力発電技術交流会開催への協力

2002年5月、深セン・上海で開催。(日中国交正常化30周年記念事業)

山崎吉秀電源開発副社長他、電力、メーカー等31名が参加。

②第2回日中原子力発電技術交流会開催への協力

2005年8-9月、秦山で開催。

西澤潤一原産会長他、電力、メーカー等の専門家23名が参加。

#### (4) 原子力国際展開懇話会での活動

- ・原産に標記懇話会(神田啓治委員長)設置。(2004年11月~2005年3月、開催)
- ・中国での原子力発電拡大計画、アジア地域における原子力発電導入計画、米国における新規建設計画などを睨んで、国際展開の位置づけ、体制整備等について検討。
- ・懇話会には関係省庁幹部もメンバーに入り、官民一体となった国際展開に貢献。
- ・その成果として、2005年2月には、経済産業大臣名で中国の国務院副総理宛に中国の新規原子力発電所建設に関するサポートレターを送付。

#### 参考 原産年次大会への中国の参加(講演等)経緯

- 第16回(1983年、東京):講演「中国のエネルギー政策と原子力開発利用」  
周秩 中国原子力工業省顧問
- 第17回(1984年、東京):講演「中国の原子力開発と国際協力」  
王淦昌 中国原子力工業省科学技術委員会副委員長
- 第18回(1985年、東京):講演「中国の原子力発電計画と国際協力」  
劉書林 中国原子力工業公司会長
- 第19回(1986年、東京):特別講演「中国の原子力開発の基本方針」  
蔣心雄 中国原子力工業大臣  
セッション3「原子力開発と国際協力」パネル討論に参加  
呂得賢 中国原子力工業省北京原子炉工学研究設計院院長
- 第20回(1987年、東京):セッション3「アジア地域における原子力開発と国際協力」パネル  
討論に参加 李定凡 中国原子力工業省次官
- 第21回(1988年、東京):講演「中国の原子力開発の展望」  
陳肇博 中国原子力工業省次官  
セッション2「アジアにおける原子力協力の展開」パネル討論に  
参加 劉雪紅 中国原子力工業省外事局副局長
- 第22回(1989年、東京):講演「本格化する中国の原子力発電開発」  
黄齊陶 中国原子力工業総公司副総経理
- 第25回(1992年、横浜):講演「中国の原子力の現状と展望」  
閔耀中 中国核工業総公司(CNNC)総経理助理
- 第26回(1993年、横浜):招待講演「中国における原子力発電の現状と見通し」  
蔣心雄 中国核工業総公司(CNNC)総経理
- 第27回(1994年、広島):セッション4「原子力開発と日本の役割」パネル討論に参加  
李玉崙 中国核工業総公司(CNNC)副総経理
- 第28回(1995年、東京):講演「中国のエネルギー事情と原子力開発」  
張華祝 中国核工業総公司(CNNC)副総経理  
セッション4「燃料サイクル・バックエンドーそれぞれの選択」  
孫東輝 中国核工業総公司(CNNC)核燃料局総工程師
- 第29回(1996年、名古屋):セッション2「拡大するアジアの原子力発電開発計画」パネル討  
論に参加 周淵泉 中国核工業総公司(CNNC)国際合作局長

- セッション2「核不拡散体制の充実と課題」パネル討論に参加  
朱明権 中国復旦大学教授
- 第30回(1997年、東京):特別講演「中国の原子力開発の進展」  
李定凡 中国核工業総公司(CNNC)副総経理
- 第31回(1998年、東京):特別講演「中国の原子力発電開発の現状と将来計画」  
蒋心雄 中国全国人民代表大会常務委員、CNNC 総経理
- 第32回(1999年、仙台):講演「中国の原子力産業の課題と機会の共存」  
閔耀中 中国核工業総公司(CNNC)総経理補佐
- 第33回(2000年、東京):講演「中国の原子力開発と中国核工業集团公司の役割」  
李忠良 中国核工業集团公司(CNNC)副総経理
- 第34回(2001年、青森):セッション1「原子力ー地球環境になぜ必要か」パネル討論に参加  
李東暉 中国国家原子能機構(CAEA)副主任
- 第36回(2003年、敦賀&福井):講演「中国のエネルギー戦略と環境対策における原子力の役割」  
馬鴻琳 CAEA 秘書長(代読:張静 同機構国際合作司長)
- 第37回(2004年、東京):特別講演「中国のエネルギー戦略における原子力の位置付けと原子力開発の現状」  
康日新 中国核工業集团公司(CNNC)総経理
- 第38回(2005年、柏崎、新潟):セッション2「躍進するアジアの将来ーエネルギー需要の将来と原子力発電の拡大」にパネリストとして参加  
辛 鋒 中国核工業集团公司(CNNC)核電局総合処副処長
- 第41回(2008年、東京):講演「中国の原子力発電計画」  
冯 毅 中国原子力産業協会事務局次長

以上